

令和4年度 ちゃぶ台次世代コーホート（第5回研修会）開催要項
令和4年度 同 Advanced Course（第10回研修会）開催要項

- 1 趣 旨 教職志望学生と若手教員等が、教員としての資質の深化、教職実践課題の解決力や省察力等の醸成を図ることを目指した協働型教職研修を行う。
特に、年間を通じた自己と研修組織の成長を総括するとともに、今後の教員に求められる資質能力等に関する講演や受講生相互のピア・サポートをとおして、教員の力量形成や教育指導の拡充を図る。
- 2 主 催 山口大学教育学部、独立行政法人教職員支援機構山口大学センター
- 3 共 催 山口県教育委員会、山口市教育委員会
- 4 開催日時 令和5年3月18日（土） 13:00～17:00
- 5 開催場所 公立学校共済組合山口宿泊所「セントコア山口」（2階 サファイアホール）
〒753-0056 山口市湯田温泉 3-2-7 Tel:083-922-0811
- 6 参加者 教職志望学生、教職大学院生、現職教員、教育委員会等関係者、大学教職員等
- 7 研修内容
 - (1)開会行事 (13:00～13:05)
あいさつ 教職員支援機構山口大学センター センター長 和 泉 研 二
諸連絡
 - (2)講義演習（オンライン講義）（13:05～14:35）
テーマ 「一人一台端末時代の子どもたちのために」
講 師 兵庫県立大学環境人間学部 准教授 竹 内 和 雄 さん
 - (3)研修の振り返り (14:45～15:30)
テーマ 「1年間の研修プログラムと自身の成長」
支援者 山口大学センター・教育学部・教育学研究科教職員等
 - (4)講演 (15:40～16:40)
テーマ 「これからの学校や先生たちへの期待」
講 師 周南公立大学経済学部 准教授 大 坂 遊 さん
 - (5)まとめ・閉会行事 (16:50～17:00)
あいさつ 山口大学教育学部 学部長 鷹 岡 亮
- 8 その他
 - (1)本研修事業は、独立行政法人教職員支援機構地域センター（山口大学センター）事業経費により運営される。



コーホート

16年目のHop! Step! Jump!

ちゃぶ台次世代コーホート通信第3号
山口大学教育学部 (ちゃぶ台方式教職研修部)
ちゃぶ台次世代コーホート事務局
山口県山口市吉田1677-1
TEL : 083-933-5399

「Basic course」第3回「Advanced course」第8回研修会のテーマは「教員の表現、話し方、伝え方」

12月26日の年末の午後、本年度第3回のコーホート研修会と第8回Advanced course研修会を、セントコアやまぐちにて合同で開催しました。今回の研修会のテーマは、「教員の表現、話し方、伝え方」でした。参加者は、受講生42人(現職教員23人、学生19人)、大学教職員13人、県教委1人、講師1人、計57人でした。

【ちゃぶ台ワーク】 「自分が大切にしていることば」「今年ぐっときたことば」について紹介し合おう

☆☆☆「ことばがもつ力」についてみなで語り合いました。☆☆☆

ご講演をしてくださった瀬川さんも入ってくださった班の「えんたくん」を紹介します。素敵な言葉がたくさん書かれていますね。互いにメッセージを送り合っている様子も、この「えんたくん」から伝わってきますね。この活動に対する受講者の感想を紹介します。

今回のコーホートでは、様々な立場の人が集まっているということを再認識した。今回は合同開催なので、先生方が多くこられており、開始前に挨拶させていただいたが幼稚園から大学まで、教育対象が幅広くまたその専門教科も多様であり、その人の立ち位置ならではの考えが見えたような気がする。その顕著な例がちゃぶ台ワークでの話し合いで、同じ言葉やありふれた言葉の中で自分の視点でその言葉を受け取り専門的な見方を加えていたのが印象的だった。このようなお互いの視点を共有し合える機会はとても貴重なものであり、大切にしていこうと感じた。(大学2年生)

【「えんたくん」とは】
・有限会社三ヶ日紙工の商品名
・グループワークなどで用いる
・段ボールでできた
直径1mの円形のボードの上に
同じサイズの円形の紙を用いる

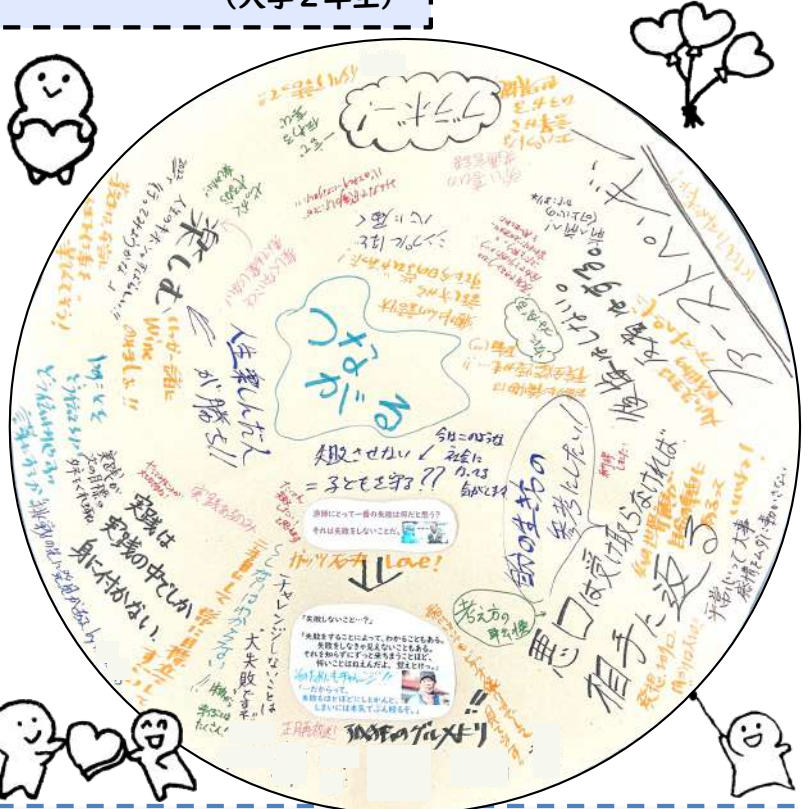
人生の教訓や学校で働く上で大切にされていることなど、「ことば」がその人の生き方を作り、支えていると感じました。

特に、グループの大学生が、中学時代に先生から言われた「ことば」を今でも覚え、生きる糧にされていることに、より責任をもって言葉を選び伝えていかないといけないと思いました。

同じグループの先輩の先生方は、話の中にキーワードが盛り込まれており、とても分かりやすく勉強になりました。また、即座にそのキーワードを円卓に記録し、話し合いをリードされている先輩の姿も刺激的でした。

冬休みも仕事を抱えており、行く前は参加するか悩んでいましたが、エネルギーをもらえて本当に参加して良かったと思いました。(中学校教諭)

ちゃぶ台ワークでは、言葉の大切さについて改めて感じる事ができました。ワークでは特に、現職の先生からお聞きした「書いたものはずっと残るもの」という言葉が印象に残りました。先生方の通知表での表現や懇談会での言葉の使い方意識されているポイントもお聞きし、とても勉強になりました。また、言葉を磨くためには心を磨くことの大切さも実感しました。人として大切にしているという気持ちを、プラスアルファの言葉やさりげない言葉で表せるようにしたいと思いました。(大学3年生)



言葉について思うことを「えんたくん」に記入し、みんなの言葉を見て、「一人ひとり違う種を持ち、その花を咲かせることだけに一生懸命になればいい」という「世界に一つだけの花」を連想しました。(高等学校教諭)

「自分の大切にしている言葉」にふれることによって、その人の信念や想いを感じることができました。その一つ一つの言葉に対して、第三者がさらに気づきを付け加えることで、言葉や想いが広がり、新たな気づきが生まれたと感じています。強い言葉には、人の心を動かす強い力があると実感しました。言葉をつかって仕事をするのが教員です。言葉の力は善にも悪にもなる強い力があることを意識して、子どもたちと接しなければならないと思いました。
(高等学校教諭)



「おかげさま」という言葉が心に残りました。ある程度年齢を重ねてからこの言葉や気持ちの大切さを感じるようになったと思っています。いつも周りの方に支えてもらって、今の自分がある…ということのを忘れずにいたいと思います。

いつも感じますが、学部生の方がとてもしっかりとご自身の考えを発言され、頼もしく思うとともに、刺激を受けています。学校現場で一緒に働けることを楽しみにしています。
(小学校教諭)

言葉は人を傷つけることもあるが、人のこれからの人生をずっと支えてくれることもある。ちゃぶ台ワークをすることによって、自分が思っていた以上に、今まで言葉に救われていたのだと気付くことができた。だからこそ、私はこれから、寄り添い支えることができるような温かい言葉を使うようにしたいと思った。
(大学1年生)



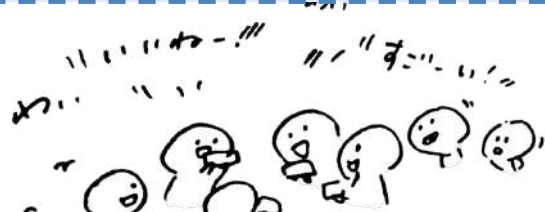
ぐっときた言葉を紹介し合ったが、それぞれの思いや願いを聞くことできた。自分自身のこれからのライフステージを見直すきっかけとなった。
(小学校教諭)

班の中で今年ぐっと来た言葉を共有した際、「桜梅桃李(おうばいとうり)」という言葉を知りました。"それぞれが独自の美しい花を咲かせること"、転じて"自分にしかない個性を磨いたり長所を伸ばすといい"という意味ですが、漢字4字で端的に表現されているのが素敵だと感じました。

また、生徒がマイナスの言葉を使った時の指導について議論しました。別の言葉で言い換えることもできるのに、あえてその言葉を使うのは知ってる言葉が乏しいのか、聞き手の気持ちを考えずに発言しているのかなど理由はいくつか考えられます。現職の先生からは、どんな理由でも、すぐに指導し言い換えさせるが、高学年にはマイナスの言葉が及ぼす影響などについて話すのが適切ではという意見が出ました。短所は見方を変えれば長所になるのと同様に、マイナスの言葉は言い方を変えればプラスの言葉に変えられることを、具体的な場面を想定して生徒と一緒に考えると次第に言葉に変化が生まれるのかなと思いました。他にもイライラ発散法をいくつか持っておくのも手だと思います。
(大学4年生)

それぞれの方の言葉を聞いていると、自然にエネルギーがもらえるような気持ちでした。どんなところで心が動かされるのか、どんなことを大切にしているのかが、なんとなく分かるワークだと感じました。クラスでも、子どもたちとしてみたいと思いました。

また、私は単語やセリフが頭に残りやす残しやすいですが、1人の人の言葉だけでなく、「やりとり」として紹介されている方もいっしょに、その感じ方も様々だということに気付きました。
(小学校教諭)



【講演】

テーマ：「ことばのことばっかり」

★講師 アナウンサー（フリー：KRY山口放送） 瀬川 嘉 さん



「私」が見ている世界は、「私だけ」に見えている世界。
私たちが互いに分かり合うためにできることは、
まず違いを認めること。
(瀬川さんのスライドより)

参加者の感想や活動の様子などをもとに、講演の様子をお伝えします。

ハッ！としました！ 素敵すぎて鳥肌が立ちました！

「思いが伝わらないとき、言葉のイメージをすり合わせていくことから始める。これがコミュニケーション。」というお話にハッとさせられました。コミュニケーションとは、ただ会話をするだけだと捉えがちですが、その思考の裏側が見えるようになった気がします。同じ言葉でも捉え方が人それぞれだということを、ワークを通して改めて感じ、だからこそ、相手に伝える「言葉」を吟味する力が重要であることを痛感しました。

子どもたちとの会話でさえも、自分は全く五感を使っていないことを反省しました。一番簡単な、視覚、目を見て話しを聞くことさえ、忙しさを理由に、ないがしろにしているときがあります。視覚、聴覚は当たり前として、空気を感じ取る、相手を大切に、このあたりの感覚をフル活用して、子どもたちと向き合わなければと反省しました。

話すことは言葉を奏でること。自分の言葉に責任を全く感じていません。反省です。教師は話し方の技術が必要ですが、抑揚、速さ、間などなど、未だに技術不足です。その解決策として、朗読があるのだと感じました。朗読の価値を改めて知ったとともに、自分の話し方の技術向上に向けて取り組んでみたいと思いました。

言葉って本当に重いです。自分は「口は禍の元」だということを、痛いほど経験してきたので、あまり話さない方がいい、話すことは怖いとさえ感じてしまいます。しかし、言葉がもつ力をご講演の中で感じる事ができたので、言葉を武器にできるように、これからは励んでいきたいと思いました。とにかく吟味する。言葉に責任をもって、ゆっくり話す。まずは意識することから始めてみます。
(小学校教諭)

話すプロの方のお話は、こんなにも聞いていて心地よいのかと感じました。長時間お話していただきましたが、耳が疲れることなく、むしろ贅沢すぎるくらいの時間でした。発声の仕方、話すときの間、抑揚の付け方など、学んでみたいと思いました。

朗読を実際聞かせていただき、始まった瞬間に鳥肌が立ちました。声色がぐっと変わったことに感動しました。

日頃、子どもたちと話すことはたくさんありますが、何気なく話してしまっていたなと思います。聞いている人が、心地よく聞けるよう、また、「わかりやすさ」とは何かも考えながら、話すようにしたいと思いました。

(小学校教諭)

「自分から出た言葉を丁寧に回収する」という表現に感銘を受けました。自分から発する言葉に責任をもつ教師であり続けたいと思います。インタビューの極意である、五感をフル活用すること、そして相手の発話を待つという技術はカウンセリングにも似ていると感じました。子どもと向き合う私たち教員にとって、大切なことを多く学ぶことができました。
(中学校教諭)

「笑いヨガ」を体験しています！みんな楽しそう！





お話やワークから、1つの言葉でも人によって感じ方、イメージするものが違うということを実感しました。このことは、グループワークでの「言葉のキャッチボール」と繋がるなと思いました。「ことば一つでも自分と相手では感じ方、見え方が違う」ということを理解して、違いを認めることが、相手が心地よく受け取れて、パスが渡せるために大切なのだと実感しました。

また、感動的な番組をつくれるディレクターさんのお話も心に残りました。相手の心に寄り添ったコミュニケーションをすることができるような人になりたいと感じました。そのためにも、五感で相手の言葉にならない部分を感じ取るという感覚を大切に人と関わっていきたいと思います。

瀬川先生が1つ1つ口にされるお言葉や、朗読をお聞きして、言葉1つ1つの重みや、言葉を音として聞く感覚を味わい、気持ちを動かしたり、想像を膨らませたりする言葉の持つ力を感じ、鳥肌が立ちました。私たちが当たり前に普段している「ことば」のやりとりは、とてもはかないもののような気持ちにもなりました。これから、たくさんの人、子どもと関わっていく中で、自分が口にする言葉に責任をもつという感覚を大切に、心を込めた言葉を伝えていけるようになりたいと思いました。

そして、感じていること、考えていることを言葉にして伝えることの難しさについて大学2年くらいのときにすぐ考えていたことを思い出しました。全てを言葉にしなくてもいいとは思いますが、ことばを自由自在につかえると、コミュニケーションは豊かになっていくのかなと感じたので、朗読など「ことば」の活動を取り入れることで、子どもの表現する力も最大限引き出せるような取り組みもしていきたいと思いました。

この度も、貴重な学びの機会をありがとうございました。

(大学4年生)



瀬川先生のご講演を通して一番印象に残っている部分は、同じ対象に対しても視覚優先タイプ、聴覚優先タイプ、体感覚優先タイプと、人それぞれ視点が異なることです。そのため、教師として指示をする際も、ただ口頭で伝えるだけでなく、黒板に文字として残す、見本を加えるなど、方法を工夫することで誤解や勘違いを防げると思いました。私自身も特に小学生の頃、指示を勘違いして違うことに取り組んでしまうことが多く、今でも時々あり悩むことがあるのですが、それもタイプによる受け取り方の違いなのだと思うことができました。

また、教師となる上で、以下の2つのことを大切にしたいと思いました。

1つ目は、「待つ」ことです。特に授業が時間内に終わりにくい時、求めている答えが出ない時などは焦りから、つい待つことをおろそかにしてしまいがちだと思います。しかし授業時間以外などで子どもと関わる際には、待つことは徹底できると思えました。授業では、教員として採用されて最初から待つことが完璧にできる自信はありませんが、日常生活から取り入れていくことで、次第に授業時においても取り入れることが出来るようになっていきたいと思います。

2つ目は、朗読を授業で取り入れてみることです。私は国語の良さの一つは、自分とは違う、異質な他者に出会えることがあると思っています。今回学んだ朗読は、その異質な他者の気持ちになり切ることができるため、より深く他者理解につなげることができると思いました。

(大学3年生)



コーホート

16年目のHop! Step! Jump!

ちゃぶ台次世代コーホート通信第4号
山口大学教育学部（ちゃぶ台方式教職研修部）
ちゃぶ台次世代コーホート事務局
山口県山口市吉田1677-1
TEL：083-933-5399

「Basic course」第4回「Advanced course」第9回研修会では、授業づくりや幅広教育課題のワークショップ、課題研究発表を行いました！

今回は、「Advanced course」登録者、やまぐち総合教育支援センターの長期研修教員の方々が講師となり、学びを提供して下さいました。参加者は、**高校生2人、教職志望学生42人、現職教員38人、大学教職員13人、県教委4人、計97人**でした。昨年度は、この回はオンライン開催でしたので、久しぶりに2月の研修会を対面で行うことができうれしく思いました。2月の研修会は、いつも以上に教職キャリア形成が異なる方々がつながり合い、学び合う研修会になるようにと願って企画・運営しております。実際にそのような場になったのも、学びを提供くださった先生方、運営のサポートをしてくださった関係者の皆様、スタッフと教職大学院M1のみなさん、そして、受講生のみなさんの学ぼうとする意欲があつてのことだと、事務局も改めて実感した研修会となりました。

それでは、研修会の様子を写真と振り返りでお伝えします。

第1部（13：10～14：15）

22番教室

【小学校：生活】

「表現力」と
「気付きの質」の高まりを目指した
生活科の授業

山口県山口市立八坂小学校
教諭 村本 涼さん



子どもたちの表現力を高めておられる実践例を伺うことができ、自分の授業、授業のスタートは何が大切かと考えることができました。小学校の生活科の授業は支援学校の生活単元学習の考え方と似ており、生活科の内容を参考にすることもあります。支援学校の子子どもたちは表現することが苦手ですが、今日の話参考にしてみようと思いました。また、授業を考える真摯な姿勢は、刺激になりました。（特別支援学校教諭）

生活科と幼児教育の親和性が、整理できた良い機会となった。見取りを大切にしている幼児教育では、逆に、対話で学ぶ際の発問設定の重要性も改めて感じる事ができた。（幼稚園園長）

本日はご講演ありがとうございました。お話を聞いて、村本先生が子どもの思いを大切にしていることがよく伝わってきました。あさがおに向かって、ダンスをする姿見てとても幸せな気持ちになりました。（教職大学院M1）

村本先生の生活科の授業実践を通して、児童の思いや願いを汲み取った授業づくりについて学んだ。

生活科の授業を実践したり、参観したりしたことがないため、イメージが難しいと思っていたが、村本先生の講座はわかりやすく、とても多くのことを学ぶことができた。今日の学びを活かした生活科の授業を実践してみたいと思った。（教職大学院M1）



23番教室

【教職キャリア形成：先生になる前に】

*教職志望学生・来年度教員になる方・
新任のアドバイスの参考にしたい人対象
先輩からのアドバイス
(卒業前から年度初めの動きについて)
—小学校の年度始めってなにすればいいの?—

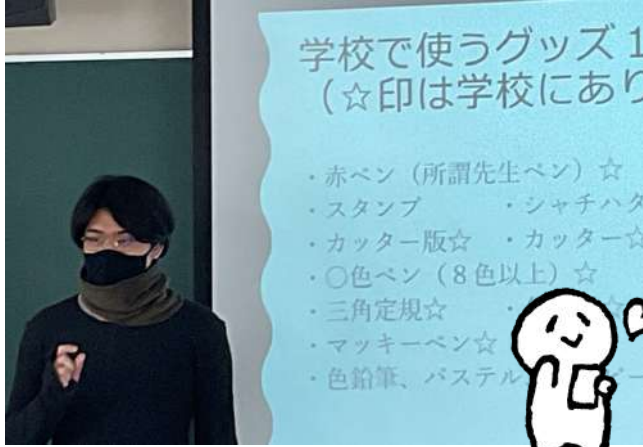
山口県下関市立吉母小学校
教諭 岩 貞 太 祐さん



新年度にあると良いものなどを、実物を見せてくださりながら教えてくださったので、とてもありがたかったです！
(大学4年生)

教員になる前に、必要なことであったり準備しておいた方がいいことなどを教えていただいたので4月から働くという不安が少し和らぎました。意外と見逃してしまいそうな細かなことまで教えていただきありがとうございました。(大学4年生)

12年経っても初心の心を忘れずに働かれている姿に感動しました！初任時の春、あの何が分からないか分からない懐かしい感覚を思い出せました！現場に出ていると色々大変なこともあります、振り返った際どの年も楽しかったと言われていた岩貞先生は本当に素晴らしいなと感じました！(元小学校教諭)



41番教室

【高等学校：総合的な探究の時間他】

だれもがり・デザイナー！？
～想いのその先へ～

山口県立美祢青嶺高等学校
教諭 平 田 悦 也さん



美祢青嶺高校の学校教育目標をもとに、総合の時間に行いたいことを計画しました。実際の学校をもとに計画したので具体的に考える力がついたと思います。
(教職大学院M1)

「地域を担う」＝「地域が好き」ではなくてもいいのではないかと、いつも考えています。子ども目線からすれば、「そんなにいいところある？」ってことだし、「自分たちではない誰かが、こんな世の中やダサイ田舎にした…若者に押し付けなくて」って考えるのは無理もない。そんなことを言ってくれる世の中に関心あって反抗的でも表明する生徒はまだいい。実際には、そんなに熱意なく関心なしも多いはず。

だからこそ、先生がおっしゃったobject(知覚・関心・行為)がとても大切だと思った。subjectとして、「地域を考えよう、良さや課題は何だろう」という風に生徒にテーマや課題を提示したとすれば、きっと「いい子」目線の浅い答えが返ってきたり、やらされ感満載の探究で、先生が一生懸命頑張ったりってことになってしまう。例えば昔の写真(祖父母の時代、親の時代)と今の写真の比較から、地域の人たちとの対話が始まったり、つながりができたり、生徒と教員の深い対話につながる切り口が見つかったり、生徒自身が何か気づき発見するほうが、生(なま)の探究で、生徒も教員も楽しいかもしれない。

その過程で、地域の仕事の風景や、地域が発展していく/衰退していく過程で働いていた生身の人間との出会いがあって、地域の紡いできた歴史や生活を感じ、「ダサイ」が使命感や役割、地域を担っていく意味に変わっていくといいなと思う。そんなことを今考えています。
(高等学校教諭)

42番教室

【中学校：学級経営】

学級経営Q & B

(人と人をつなぐ学級経営)

山口県宇部市立常盤中学校

教諭 岡本大介さん



学級経営をする上で、学級目標を生徒に決めさせることが必要であると理解できた。また、岡本先生の人柄や、話し方を見て、生徒から信頼される教員になることで経営もしやすくなると感じた。生徒の良いところを見つけ、積極的に褒めることができるような教員になりたい。
(教職大学院M I)

学級経営に明確な答え(Answer)はなく、子どもがより良く凄くための方法(Better)があるのだという、冒頭のお話がよく分かりました。

子ども同士を繋ぐ際に、同時に学校課題の解決に寄与するようにできていて、そのような方法は真似したいなと思いました。
(大学3年生)

最近、学級経営について振り返ることが少なかったため、とても良い機会になりました。学級ですぐに使えるネタや学級目標を更新していくといった新視点を得ることができ、さっそく来週から使わせていただこうと思います。また、朝からエンカウンターを行うことや、生徒一人ひとりの個性を大切にされている点など、共感できる所ばかりでした。学級経営について、もっと見聞を広げていきたいと感じました。
(中学校教諭)

43番教室

【発表①小学校：遠隔合同授業・伝える力】

他校との合同学習を通して

児童の伝える力を高める指導に関する研究

—遠隔合同授業の伝え合う活動における

学習過程の工夫を通して—

やまぐち総合教育支援センター長期研修教員

山口県防府市立小野小学校

教諭 田中啓一さん



田中先生の講座では、遠隔合同授業を通して相手意識をもって伝える力を高めることができるという良さを学ぶことができました。特に新聞づくりやプレゼンテーションを行う活動では内容よりも見た目を重視してしまいがちですが、先生が内容を重視するために相手からの質問を利用して、内容が不十分なことに視点を向けさせるという手立てがとても印象に残りました。自分たちだけの見方では限界があるため、自分たちとは異なる他者とかかわる活動はとても有効的だと思いました。
(大学3年生)

遠隔授業を行うことで、離れた土地で暮らす児童の文化を知ることができる良さがあると改めて感じた。また、継続的に取り組むことで関係を築くことができたり、より良いコミュニケーションをとることができたりするのだと分かった。そばにいるわけではないからこそ、他者意識が高まり、いつもと異なる児童の良さが見られるのではないかと考えた。
(小学校教諭)

田中先生の講座では、子どもたちの伝える力の変容、相手意識の高まりが見られた興味深い内容でした。特に、遠隔合同授業を継続的に行うため、同期型と非同期型を組み合わせた形態は今後のモデルになると思われます。小規模校の教育の質の充実につながる大変汎用性が高い授業だと思いました。今後の遠隔合同授業の参考にさせていただきます。
(高等学校教諭)

43番教室

【発表②小学校：遠隔合同授業・話し合い】

ファシリテーターとして
主体的に話し合いを
展開する力の育成に関する研究
ー遠隔合同授業での話し合い活動を通してー

やまぐち総合教育支援センター長期研修教員
山口県光市立塩田小学校
教諭 宮本 亜希子さん



宮本先生の講座では、児童のファシリテーター力に焦点を当てられており、実践を通して子どもたちは主体的な話し合いができる意欲や態度が向上していると感じました。この力は、学校で学ぶ教科では身に付けることが難しい力だと思います。特に小規模校のファシリテーター力が育成できる実践で、そのような学校には大変参考になるのではないのでしょうか。私自身も、このファシリテーター力の育成にも着目して指導していきたいと思いました。（高等学校教諭）

遠隔合同授業に関する研究発表を聞くことができました。子どもの資質能力を育成するために遠隔合同授業が効果的であることを理解することができました。

遠隔合同授業を実現するための背景には、先生方だけでなく学校が一丸となって取り組んでいることを実感しました。（小学校教諭）

遠隔合同授業を始めるにあたって、まずは相手とのつながり作りを行うことの重要性を感じました。実際に先生が朝学活などの空いた時間を使って相手のクラスとアイスブレイクを行われている実践を知り、授業時間以外でも相手とつながる場面作りが大切だと思いました。また、学んだファシリテーターのコツを他の場面でも使う場面作りをなされていて、汎用的な学びにつながる重要な手立てだと考えました。（大学3年生）

第2部（14：30～15：35）

22番教室

【小学校：生活科・総合的な学習の時間】

子どもが挑戦する！探究する！
ステキなドラマが起こる
学級の先生がやっていること

広島県教育委員会事務局
学びの変革推進部義務教育指導課
指導主事 飯干 新さん



飯干先生が様々なステキな先生を教えてくださいときの生き生きとした話し方がとても印象に残りました。学習指導要領や教科書などを読み込んで授業を考えることももちろん大切ですが、私はこれから先、周りの先生方の授業を見学してその先生のいい技術を吸収して自分のものにしていきたいと思いました。その際、私が担当する教科だけでなく、他の教科や校種の先生方の実践からも積極的に学びたいです。まったく考えもしなかった新しい視点などはそういったところから得られると考えています。貪欲に学び続ける姿勢を大切に今後、教師として成長していきます。（大学4年生）

探究する活動についての話し合いから、教員自身がどういう教員でありたいかという探究のテーマに迫っていく飯干先生のファシリテートが大変に勉強になった。子どもの探究サイクルにおいては教員自身の学ぶ姿がモデルとなること、また一緒に学んで学校づくりをする経験を通して共に成長していくことが大切であることがつかめた。

指導と評価の一体化においては、子どもたち、関わる相手を尊敬する視点があると、指導改善の必要性が高まると学ぶこともできた。

先生自身の立ち振る舞いや言動が、講座を明るい雰囲気にしていたので、共に成長し合える職員室の実現に向けての大きなヒントになり、貴重な研修になった。（小学校教諭）

目の前にいる子どもに寄り添い、子どもたちの気付を加えるなど子どもたちが主人公となるように。「地域のために」ではなく、まずは「地域の魅力を感じる」ように展開していく。また、校種を越えた連携時には「お互いにリスペクトした関係であること」などを学ぶことができました。近くの方と意見交換する時間が度々あり、今回、幼稚園の方とお話することができて校種の違いによる指導の比重の違いなどを知ることができてとても良かったです。（高等学校教諭）



41番教室

【中学校：生徒指導】

丁寧な生徒指導

～現場で起こりうる
ケーススタディを通して～

山口県下関市立垢田中学校
教諭 黒瀬 崇 さん



様々な事例に対応する日々ですが、考えられるケースについて膝をつき合わせて語り合うことで、また新たな考えにふれることができました。特に、タブレットの使用に伴う生徒指導上の問題について、「タブレットで～してはいけない」というような規制ばかりでは、結局たちごっこになるのは先生方みな共通していることでした。しかし、GIGAスクール構想のそもそもの目的などが子どもに伝わっているのか、ということを知り、今後の指導に生かしていきたいと思いました。

(中学校教諭)

黒瀬先生が生徒指導提要の改訂についてきちんと把握されているように、現場目線だけでなく、国や県の方向性を踏まえた上で、実際の指導を考えていくことが重要だと改めて感じました。LGBTの問題など、難しい判断が迫られることもあると思いますが、国や県の動向、時代の流れ、子どもや保護者の思いなど、多様な観点から判断できる教員でありたいと感じました。(中学校教諭)



特に難しい生徒指導の視点を扱われ、考えさせられる講座でした。特に「LGBTQ」のテーマでは、これから増えると予想される相談事例であり、これからの学校としてどのように対応していけばよいかの視点が深まりました。これからの生徒指導は、組織的に対応することも多くなると思われます。むしろ、組織的対応をしなければならないでしょう。学校として何ができるのか、学校は何を配慮しなければならないのか、組織的な生徒指導をもう一度振り返り、考えを深めていきます。

(高等学校教諭)

42番教室

【教職キャリア形成】

*教職志望学生対象

教員という仕事を楽しむために

山口県防府市立華浦小学校
教諭 渡邊 隆 士さん



教員の楽しさを学ぶ中で、まずは自分を知ることの大切さをこの講座では学んだ。渡邊先生の自己紹介の中で渡邊先生はよく自身のことを知っているのだと思った。だからこそ、渡邊先生の話には説得力があり、とても学びになると感じた。渡邊先生には授業の中でも助けていただくことが多くあり、周りがとても見えている印象だった。

電話の対応での失敗は、意外でとても驚いた。しかし、失敗を失敗で終わらせず、他の教員が同じ失敗を繰り返さないように研修に取り入れるのはとてもすごいことだと思った。とても楽しい講座だった。(教職大学院院生)

先生の最後のお話がとても印象に残りました。私も「どう自分を変えればあの人と仲良くなれるだろう」と日頃から考えてしまいます。でも人には「合う・合わない」もあるし、すべての人と完璧に打ち解け合うのはとても難しいことなのだろうと今日のお話で感じました。

教員である以上、極力多くの保護者や同僚の先生方と良い関係を築けるように努める必要はあると思いますが、だからと言って、もしどうしてもうまく付き合えない方が表れたときには、自分を責めるのではなく「タイプが合わないから仕方ない」と割り切れるくらい、自分に優しくありたいと思いました。ただ、言葉の一つ一つに気を配るだけで相手はどう感じるかが変わってくることも学んだので、不信感を抱かせないように心を配っていきたいと思います。

(大学4年生)



43番教室

【発表①小学校：国語科・シンキングツール】

考えを広げたりまとめたりする力を育成する
小学校国語科の授業に関する研究
ークラウド上の
シンキングツール等の活用を通してー

やまぐち総合教育支援センター長期研修教員
山口県下関市立安岡小学校
教諭 大 貝 浩 蔵さん



タブレット端末を学習者の共通認識を一瞬に行えるツールの事例だったと思いました。他者の考えを見えるかした状態、多くの他者の意見にふれる機会になっているので、他者理解にもつながっていると感じました。支援学校のも同じようなこと使い方（学習者が同時に見える）をしている授業もありますが、シンキングツールを使っての授業はしているのを見たことがなかったので参考になりました。
(特別支援学校教諭)

シンキングツールを活用することで、子どもたちが論理的に考えを整理したり、深めたりすることができるかと改めて感じた。
(小学校教諭)

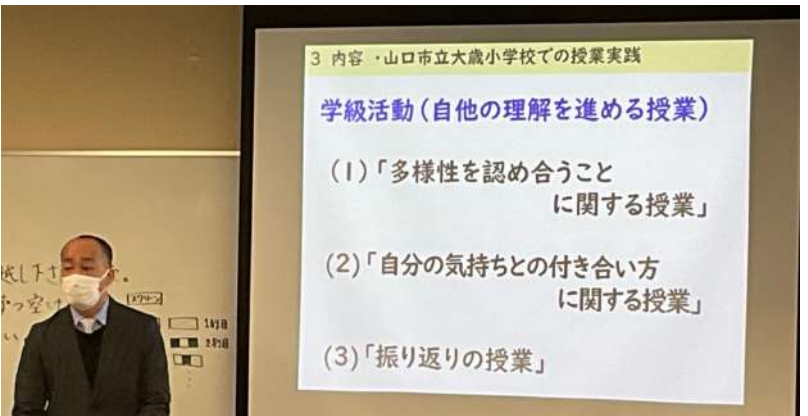
情報や考えを迅速に共有・複製・利用・修正するためのクラウド上のシンキングツールの研究発表のお話を聞くことができました。タブレットなどのICTが現場に入ってきて、使わなければ…と思いつつも使えていない私にとって、ICTを使ってみたいと思えるような発表でした。先生が言われてたように、ただ使うのではなく、それぞれのよさを理解して使うことが大切だと学ぶことができました。
(小学校教諭)

43番教室

【発表②小学校：自他理解・多様性】

よりよい人間関係の構築に向けた
自他の理解を進める授業づくりに関する研究
ー自分の気持ちとの付き合い方に関する
授業と多様性を認め合うことに関する
授業の開発を通してー

やまぐち総合教育支援センター長期研修教員
山口県山口市立大歳小学校
教諭 渡 邊 克 敏さん



渡邊先生が発表された「自分の気持ちとの付き合い方に関する授業」は大変興味深かったです。通級指導教室ではよく行われる指導ですが、現代の子どもたちを見ていると、今後小学校のカリキュラムに位置付ける必要があるのではないかと感じます。継続して取り組むことでどのような成果が出るか、気になります。
(小学校教諭)



徒指導主任のお立場から感じられる子どもの心の揺れに研究を通してアプローチをされたことは、原籍校だけでなく多くの学校の担当教員や学級担任の励みになるものと思います。

今回の学級活動(2)イの項目は、割とAFPYで扱われることの多い部分ですが、今回のようなケーススタディ的要素を取り入れ、座学で学ぶことも重要と感じます。途中でふれられていたように、保健指導との関連性も非常に高いように思います。そういう意味で、体験重視の授業ではないこうしたアプローチが開発されることは意義深いと思います。学級活動の授業展開(つかむ、さぐる、みつける、きめる)の要素がなかなか現場に浸透していない部分があることは否めず、どうこの良さを広めていくか難しくもあり、重要なことと感じました。
(小学校教諭)

渡邊先生は、開発をされたものを検証をする部分を担っておられ、ご苦勞をされたのだろうと推察しました。他者理解と自己理解をどのように進めると人間関係がよりよく築けるのか、現在の人との関係が複雑になっている中で求められている視点なのだと感じました。
(特別支援学校教諭)

第3部 (15:50~16:55)

22番教室

【中学校：地域連携教育・社会科】

- ①交通安全を核とした地域連携教育の取組
- ②小・中の学びのつながりを意識した社会科授業づくり
—「天下統一」をどう考えるか—

山口県山口市立小郡中学校
教諭 末村和也さん



地域連携は大事な視点ですが、安全教育との関連性は新しい視点でした。こんな方法もあるのだと、視野が広がりました。また、社会科の授業については目から鱗。自分は歴史の授業を楽しませることができずにもやもやとしていましたが、小中と比較することで、学びの本質的な部分、そしてそれに迫る3つの視点の意識の重要性を学びました。活用していきたいです。
(小学校教諭)

社会科において、子どもたちにどう学ばせたらよいかを理解できました。これまでは暗記というイメージが強かったですが、比較する問いや時代を動的・静的に捉える重要性について学ぶことができました。私自身、小学校社会科に力を入れたいと思ってるので勝手ながら今後の参考にさせていただきます！(大学4年生)

末村先生、小郡中でもお世話になっております。交通安全だけでなく、日頃から生徒会など小郡中を動かしおられる姿を拝見して、私も頑張らなければいけないと感じています。ぜひ、授業参観させてください。よろしくお願いいたします。(教職大学院M1)



41番教室

【教職キャリア形成】

*教職志望学生対象

教師として働いている姿を
具体的にイメージしよう
～一日の時間の使い方～

山口県下松市立末武中学校
教諭 中原基一郎さん



教員の仕事について知ることができ、優先度を考え、うまくこなしていくことが必要であると感じました。また、全ての仕事は生徒のために繋がっている意識して、取り組みたいと思いました。
(教職大学院M1)

本講座を通して教師の業務が多様であることを改めて実感するとともに、優先順位をつけて効率的に行動することが自分のためにも生徒や周りの人のためにもなると考えました。緊急性の低い事柄を最初に取り組んでいると、高い事案への対応が遅れさらに問題が深刻になってしまう可能性が考えられます。その結果、生徒や周りの先生方、保護者等の信頼を損ねることにつながるため、常にToDoリストを作りながら優先順位を明確にして行動できるような教員になりたいと思います。

また、班によって教師の空き時間の過ごし方のまとめに違いがあることがとても面白かったです。4分割したり、緊急性ごとに分けたり、授業や会議などの項目ごとに分けているなど一つの議題でも多様な見方があることを実感しました。どの班でも、それぞれのタスクを明確に分けることはできず、それぞれが相互に繋がりをしていることを可視化して理解することができました。それぞれを単独のものとして見るのではなく、思わぬところで良くも悪くも影響を与えることを意識しておきたいです。(大学4年)



42番教室

【教職キャリア形成】

65歳定年へ
～教員としてのキャリアを考える～

山口県長門市立深川小学校
教諭 谷村直美さん



漠然と考えていた自分自身のキャリアを明確にすることで、目標が明確になり、仕事へのやりがいが強まった。また、その目標の実現に向けて何が必要なかをセットで考えることを通して、学び続けること、専門性を高める研修の必要感を高められた。

同世代や大学生とも情報交換でき、それぞれの視点やキャリアプランのビジョンから刺激をもらうこともできた。

自分のキャリアは自分で創る」、「自分らしいキャリアづくりの大切さ」を学ぶことができた貴重な研修になった。



今まで私は「小研を卒業して、小学校の先生になる」という目標のもと、頑張ってきました。ですが人生のキャリアを考えたとき、先生になった後の未来を考えたことがなかったことに気がきました。年数で考えると、これまでの人生よりこれからの方がずっと長いです。将来のことを考えると、不安なことはいろいろとあります。例えば私は女性なので、もしも結婚や出産を経験したら、先生の仕事を続けられるのだろうかという不安があります。教師は辞めたくないけど、子育てをしながら働くことは可能なかなと考えたりします。もし辞めなかったとしても、その次は現場で働き続けるか、管理職を目指すかという問題にも出会うと思います。

今日のお話で「山登り型と川下り型」があるということを知ってもらいました。今までは山登り型として頑張ってきたけれど、これからは「川下り型」で、目の前の授業や学級経営のことに全力を注ぎ、教員としての力が付くように頑張っていきたいです。

43番教室

【発表①高等学校：探究】

探究的な学習における生徒の主体性を育む
授業づくりに関する研究
—防災教育を題材とした
地域課題の解決を通して—

やまぐち総合教育支援センター長期研修教員
山口県立萩商工高等学校
教諭 小田知志さん

どの校種においても、主体的に取り組む活動が子ども達に良い影響を与えているか、その機会を教師がいかに仕組んでいくかが大切であることを感じました！新しい取組を試みることは、組織で動いている以上いろんな方々の理解と協力が得られない限り難しいことですが、できるできないにとらわれず、まずはやってみようという教師自身の想いを大事にしたいです。

(元小学校教諭)

職業人として目標を達成するために授業の手立て（ルーブリックによる目標設定）などを工業科と商業科が連携しながら、編成したグループで新たな視点を得たり、課題発見につながったりする事例をお聞きしました。現在、私の勤務校も農業科と工業科など4つの学科があるので、参考にしたいと感じることが多くありました。

生徒の活動事例の中では、はじめは意見がなかなかできなかったが、面談を通して「地域の職業人に聞いてみたい」など、具体的な要望がでるようになったなどお話があり、実際に活動に携わってこられた生徒さんが、自信を持って振り返りなど話してくださったその姿が、学びの結果だと感じました。

(高等学校教諭)

小田先生の同僚で、共に授業づくりに取り組んだ安藤瑞枝先生と、小田先生たちのもとで学び、地域課題の解決のために自分たちにできることを実践していった高校3年生の住田真悠さん、森野羽菜さんも発表の中でお話をしてくださいました。高校生のお二人の進路は、山口大学だそうです。



小田先生のご発表では、「生(なま)の」素材や課題は生徒の探究活動への意欲を喚起するということがよく見えました。2人の生徒さんの言葉から、自分たちの変化(成長)をよく認知できていて、ルーブリックでの評価がその一助となっていたのかなと感じました。授業後に振り返りをもとに面談をしたと、おっしゃっていましたが、人との対話により考えなどが整理され言語化しやすくなると思います。そういう自分のやったことや考えを言葉にする経験の積み重ねが、自己肯定感や有用感にもつながり「主体的に行動できる自分像」の構築にもつながっているのではないかと考えました。
(高等学校教諭)

43番教室

【発表②特別支援学校：美術教育】

特別支援学校における
知的障害のある生徒に対する
美術教育の充実に関する研究
—深い学びにつなげる
「振り返りシート」の作成・活用を通して—

やまぐち総合教育支援センター長期研修教員
山口県立山口総合支援学校
教諭 西村江美さん



以前から振り返りの時間は大切だと分かっていたのですが、今回はこのように児童生徒が変わっていくのだと分かりました。また、振り返りシートが造形的な見方・考え方に繋げるといことはとても勉強になりました。自分は音楽の免許も取得予定なので、音楽を形づくっている要素を子どもに理解して貰えるよう、今後は振り返りシートも意識して授業を考えていきたいと思ひます。
(大学3年生)

子どもの実態に合わせた目標設定、段階をチーム・ティーチングの教員と協議されて授業を実施されていたので、すごく参考になりました。ただ、教科の段階見取りシートの作成は大変だったと思います。どの教科でもあると指導・支援をするときに、子どもの実態に合わせて授業に入る他の教員も同じように関わることができると思ひました。
(特別支援学校教諭)

「振り返りシート」の有用性がよくわかる内容で、子どもたちの姿が大きく変容したことは興味深かったです。特に、造形的な視点に焦点を当てて深い学びを考えておられたことは、各教科それぞれの視点による深い学びにつながるものと感じています。西村先生の「振り返りシート」が効果的だったことが伝わりました。さらに、これまでの振り返りとの違いや何がよかったのかという点をもう少し詳しく聞きしたいです。
(高等学校教諭)

また、次回も、来年度も一緒に学び合ひましょう！



<感想より>

コーホート開催にあたり、託児スペース(EX.幼保志望の学生さんの力をお借りするなど)があるとありがたいです！毎回は厳しいかと思ひますが、年1~2回でも託児スペースがあればなお来やすいです！個人的な要望をすいません。ご検討していただけると嬉しいです。やはりコーホートメンバーにお会いするとパワーをいただけて、私もまた頑張ろうと思ひます！改めてこのコーホートという場所は私にとって、私たち夫婦にとって大切な場所だなあと感じました！本日もありがとうございました。

♥♥誰もが参加しやすいコーホートになっていくように、改善の方向性を探ります♥♥